

本校では、子供たちの「ウェルビーイング」を目指した取組を進めています。
成長の過程で子供たちは、様々な事柄を経ています。
その時々で、でも、自分とみんなのウェルビーイングに気を留めることを大事にしてもらいたいと日々思っています。

7月1日 お話朝会でのお話

先日、ある保護者の方から、おたよりをいただきました。
「運動会の中で、私はとても良い光景を目にしました。2年生の学年競技の時です。
黄色組はボールを落とすミスが続いて、他の組に一步及ばず3位でした。
競技が終わり、皆自分の席に戻った時に ミスしたと思われる子が泣いておりました。
それを見かけた6年生が何人が駆け寄ってくれて「気にするな！」と声をかけて肩をたたいて慰めてくれていました。
6年生が見せてくれた優しさとチームを引っ張る姿が素敵でしたし、くやしがる2年生もまた真剣に競技に取り組んだんだなと思いました。
最近是个が重視されがちな社会ですが、運動会に取り組む子供たちの真剣さとチームワークを見て 清々しい気分になりました。
下級生もそのような素敵な上級生の姿を見て 育ってほしいと思います。
また来年の運動会で 仲間と力を合わせる活動を見られることを楽しみにしています。」
このおたよりを見て、私はとても嬉しくなりました。

運動会の開会式の時、私は皆さんにこう言いました。私はこの運動会を通して、自分以外の人が力を出し切る姿を見て、ああなりたいと憧れをもってほしい。練習の成果を発揮して、これまでの自分を超えようと頑張り、頑張れた自分に自信をもってほしい、と。
この保護者の方のおたよりから、そうできた人が確かにいてくれたことを実感して、とてもよかったなと嬉しく思います。
こういう素敵な場面は、その当人たちだけではなく、周囲の人にも清々しい気持ちを与えてくれますね。

そんな素敵な皆さんなのですが、時折、悲しい、さみしい場面に出くわすことがあります。
人をからかうような、けなすような、あざ笑うような、本当に苦しくなり、怒りもわいてくるような場面です。自分がそうされている立場だったら、どんな気持ちだろうと、胸が痛くなります。
自分がされていなくても、見ている周囲の人は、私のようにやるせない思いを必ず抱きます。
人をからかうような、けなすような、あざ笑うようなことは、してはならないこと。許してはならないことと思っています。

運動会で保護者の方が見つけて教えてくださった素敵な場面を作れる皆さんだからこそ、悲しい、さみしい場面を作らないようにする、駄目だよってなくせるようにすることだって必ずできるはずです。
全員がそう心掛けることが嫌な思いをする人をなくし、清々しい気持ちを抱く人を増やすことになります。それが、ウェルビーイング、心と体が健康で幸せな状態を作ることにつながります。
あと3週間で夏休みになります。
1学期のまとめとして、自分の立ち居振る舞いを今一度、考え直してもらいたいと思っています。
全員が自分と周りの人の心と体の健康と幸せに気を付けられるよう、頑張ってもらいたいと思っています。